

つづきジュニア編集局 第15期生

 うえの あかり 上野 茜理 中川小学校 4年	 たけうち ひろか 竹内 裕香 中西小学校 4年	 みやた ひろき 宮田 海輝 中川小学校 4年	 いとう かなな 伊藤 葉那 茅ヶ崎台小学校 5年
 きし みおり 木尾 実莉 中川小学校 5年	 くりはら ゆい 栗林 優衣 つづきの丘小学校 5年	 すずき はやと 鈴木 隼斗 荏田東第一小学校 5年	 はせがわ たかし 長谷川 嵩快 勝田小学校 5年
 ふじえ こずは 藤江 梢葉 南山小学校 5年	 いいだ めい 飯田 萌愛 都筑小学校 6年	 ひりゅう 陽 琉 川和東小学校 6年	 かとう のぼる 加藤 昂 山下小学校 6年
 さとう かなみ 佐藤 奏実 茅ヶ崎東小学校 6年	 さわだ かの 澤田 佳乃 川和小学校 6年	 うちの せいいか 内野 聖火 荏田南中学校 1年	 なりゆき こうたろう 成塚 洸太郎 荏田南中学校 1年
 あがわ ゆうき 小川 悠樹 都田中学校 2年	 たけうち みひろ 竹内 美裕 中川西中学校 2年	 はせがわ みちあき 長谷川 路彰 早瀬中学校 2年	 そうごう りさ 草郷 緑彩 ブルックラインハイスクール 高1
 きほう 希望 中川小学校 4年	 しーくれつぱー ター君 中川小学校 4年	 ゆかわ まあ 湯川 真央 美しが丘小学校 4年	 つじ あかり 辻 珠理 中川小学校 5年
 なかみつ ゆい 中光 結愛 荏田南中学校 1年			

記者個人の希望により、掲載しない方、掲載の方法をくふうしています。順番は学年ごとの50音順です

MMジュニア編集局 第6期生

 ほその ゆいと 細野 由衣斗 戸部小学校 4年	 まつだ さな 松田 紗奈 篠原西小学校 5年
 むらた はるか 村田 悠 みなみらい体操小学校 5年	 ゆうな ゆうな 篠原西小学校 5年
 ながはた さよ 長竹 咲葉 上寺尾小学校 6年	 ばば こうへい 馬場 航平 野庭すずかけ小学校 6年
 ひょん そよん ピョン ヨン みなみらい体操小学校 6年	 こばやし れん 小林 廉 老松中学校 3年
 むらた こころ 村田 こころ 神奈川学園中学・高等学校 中3	 やまもと みらい 山本 未来 六角橋中学校 3年
 つのだ かずあき 角田 和瑛 南高等学校 高2	 みぞぐち まあ 溝口 真央 本校南小学校 4年



2023年度
ぼくたち、わたしたちの未来、勉強中です！
つづき・みなとみらいジュニアタイムズ
合同記念号

つづき15周年 ジュニア編集局ミニヒストリー

2009年に都筑区制15周年の記念事業として「つづきジュニア編集局」事業が都筑区役所主催で実施されました。第一期生は小学4年生から高校2年生までの幅広い年代の40人の記者が集まりました。当初から東京都市大学の学生さんが会議や取材をサポートしてくれていました。

2010年から、区の周年事業ではなくなったため、NPO法人ミニシティ・プラスと東京都市大学の共催で行うことになり、現在まで継続しています。

被災地石巻への取材とシンポジウム開催
2013年ドコモの市民団体への助成金を受け、震災を機に子ども記者の取材活動をはじめた「石巻日日子ども新聞」との交流を目的に記者代表9名が被災地である石巻に行き、子ども記者シンポジウムを行いました。

2018年～2020年 オリンピックパラリンピックを取材
都筑区がイギリスのホスト地になったことから、イギリス大使館の取材や選手の取材などを行い、都筑・横浜を盛り上げました。

ジュニアタイムズは、子どもたちが取材し、記事を書く地域新聞です。
つづきジュニア編集局は都筑区制15周年の2009年度に活動が始まってから、15周年を迎えました。都筑区は来年度区制30周年を迎えます。2018年には、みなとみらいエリアでのMMジュニア編集局が始まり、現在は2つの編集局が合同で取材をすることもあります。今回は記念号として、2つのジュニア編集局が合同で地域の魅力を発信します。

このジュニアタイムズの印刷費は横浜読売会の協賛によりまかかっています

このジュニアタイムズの印刷費は横浜読売会の協賛によりまかかっています

2018年 みなとみらいにMMジュニア編集局誕生
2019年 第1回子どもメディアシンポジウム in Yokohama@みなとみらい
ゲストに石巻日日子ども新聞、川崎のじもとんキッズを招いて、トークセッションやワークショップを行いました。

2019年 都筑区20周年記念で広報よこはまの紙面担当
都筑区の魅力を子ども目線で発信する記事を書き、大きく掲載されました。お隣の青葉区も20周年のため、青葉区の子どもたちと「いいとこ自慢バトル」も行いました。

2021年 第2回子どもメディアシンポジウム in Yokohama@横浜役所
コロナ禍の中、石巻や四街道市の子ども記者活動をする方達とオンラインでつないで実施。コロナ禍での子どもたちからの緊急記者会見も行い、多くの大人のメディアの取材がありました。

2021年度こころを育む総合フォーラム(優秀賞@公財) パナソニック教育財団を受賞

私たちはジュニア編集局を応援しています

- ご協賛いただいた方々(順不同)
- ザ・カハラ・ホテル&リゾート横浜 就労継続支援B型事業所 AASHA横浜 有限会社マインド
 - 株式会社MEDI-TRAIN
 - ハーモニカ奏者 安田倫
 - 松本紀明
 - Y.W
 - かなりあ少年少女合唱団
 - YOKOHAMA COFFEE FESTIVAL
 - Sygnite 菓子工房のスグーリ

15年前の編集局がスタート時に担当職員でした
15周年おめでとう！子どもたちが記者として、まちのことを調べ、インタビューし、記事を書く。都筑区制15周年事業でワクワクする企画が実現しました。
子ども会議では、たくさんのアイデアにあふれ、それぞれが個性を活かして参加していて驚きました。その子どもの可能性を信じ、引き出す大人スタッフの支援もすばらしかったです。ジュニア記者たちと一緒に活動し、子どもの可能性を肌で感じるという貴重な経験をさせていただき、楽しい時間でした。
周年事業終了後もミニシティ・プラスと東京都市大学を中心に運営が継続され、15周年を迎えたことに感謝の思いでいっぱいです。ジュニア記者卒業生が、成長して社会で活躍する大人となっていることにも感動しています。本事業に関わるすべてのみなさまの今後のご活躍、ご発展を心からお祈りします。
元・都筑区地域振興課職員(現・交通局) 松本恵里子


15年間ずっと学生と一緒にサポートしてきました
取材する魅力はもちろん、他の学校や学年のジュニア記者と、違いを超えて一緒に活動することもジュニア編集局の魅力です。研究室の大学生にとってもジュニア記者たちの支援と交流は貴重な体験です。年間を通じて記者たちが成長する姿を見ることができるとてもうれしいことです。今後もできる限り活動をサポートしていきたいです。 東京都市大学教授 中村雅子

まちを取材する楽しさを体験しませんか？
15年間という長い時間、続けていくことができたのも、多くのみなさんの応援のおかげです。また記者を体験したみなさんが卒業してからも社会の中で活躍してくれていたり、NPO法人ミニシティ・プラスのスタッフになってくれたり、ずっとつながっていることがとてもうれしいです。
取材活動で自分の言葉で質問できるようになり、それを他の人に伝えることができるようになる体験はなかなかできません。私たちと一緒にもしろい、すてきだと思うまちのこの取材をしませんか？新人記者の応募お待ちしております。
NPO法人ミニシティ・プラス 岩室晶子

ジュニアタイムズは印刷費を横浜読売会にご支援いただき、作成しています。
つづきジュニア編集局 15周年誠にありがとうございます。
発行当初より長年応援させていただいておりますが、これまでに「こころを育む活動」として表彰されるなど活躍を目にすることも多く、改めて感銘を受けました。ジュニア記者が読売新聞記者となって活躍してくれていることもうれしいことです。
今後とも、さらなる発展を心よりお祈り申し上げます。
横浜読売会

学生スタッフとして編集局を支えています

東京都市大学メディア情報学部
中村雅子研究室



浅利 敬史 小野 優汰
姜 東均 小林 大祐
西潟 弥生 松山 飛翔
丸山 佳純 菊地 七海
&中村雅子先生 高林 優衣
張 資婿

神奈川大学 経営学部


つづき第15号 MM6号 合同記念号 2024年(令和6年)2月発行
編集 つづきジュニア編集局・MMジュニア編集局 (事務局 認定NPO法人ミニシティ・プラス) 香取友貴・橋本みなみ・平戸由美・渡邊裕子・岩室晶子
発行 認定NPO法人ミニシティ・プラス
http://junior.minicity-plus.jp/ (e-mail minicityplus@gmail.com)
協力 東京都市大学メディア情報学部 中村雅子研究室 神奈川大学経営学部
後援 都筑区役所・西区役所

そして・・・今年15周年を迎えることになり、今回はみなとみらいジュニア記者との合同記念号を発行！
いままでの記者延べ参加数は、都筑626名、MM79名、合計705名、取材回数は都筑218、MM47 合計265になりました。

ジュニア記者OBOGからメッセージ

つづきジュニア記者1期生 中学校教諭 稲葉立樹
スマホを使う時代だからこそ、相手に伝わる文章を作る力は、常に求められています。その力は小中学生の間に身につけることが大事です。当時感じたことを言葉にすることに苦手意識を持っていた自分にとって、記者の活動は貴重な時間でした。大人になった今、二度とできないと思える経験を、小学生の時にできたことがとてもうれしいです。この活動はいろんな発見があり、可能性にみちあふれています。ぜひ実感してみてください！

つづきジュニア記者5期生 ミニシティ・プラス理事 橋本みなみ
小学5年から高校生までジュニア記者として活動し、現在スタッフをしています。取材では自分の住むまち、そこにある会社や工場、イベントなど、多様な場所の内部まで見ることができました。家の近くでの未知だった会社や、週末買い物に行くショッピングモール、近所のお菓子屋さん等で、熱意と工夫を持って働いている人たちの存在を知ることができました。実際の現場から学ぶ経験は貴重です。今後もジュニアタイムズが楽しみです。




つづきジュニア記者16期生 MMジュニア記者7期生 募集!!

■応募資格

- 2024年4月の時点で小学4年生から高校生の活動に一人で参加できる方
- 2024年度おおよそ1年間の任期に参加できる方
- 電子メール(保護者の代行可)でやりとりできる方
- 取材は基本横浜市内になります。その際の交通費は自己負担になります。
- 最初の編集会議は5月を予定しています。
- 取材活動は不定期です。日程が合い、参加できるときにご参加ください。

■応募は・・・
必要事項を書いてメールで申し込こむか、申し込みフォームからお願いします。
参加費用は年間1000円(保険料、資料代等実費)がかかります。最初の説明会&会議のとき、集金します。

■応募&お問い合わせ
NPO法人ミニシティ・プラス
メール minicityplus@gmail.com
電話 045-306-9004 (10時～18時 月曜日)



つづき 応募フォーム
みなとみらい 応募フォーム

つづきジュニア記者1期生 読売新聞記者 黒山幹太
中学1年生だった2009年、ジュニア記者1期生となった当時の私は、10年後にまさか本当の新聞記者になるとは思っていませんでした。今は読売新聞の記者として岩手県で働いています。ジュニア記者は私の原点です。子どもの頃からいろいろな立場の大人に会い、話を聞ける特権は、当たり前なことではありません。誰もがスマートフォンを持ち、インターネット上で本当かどうか分からない情報に接する時代だからこそ、「現場に足を運んで自分の目と耳で確かめること」はますます大切です。私も卒業生として、みなさんの活動を応援し続けます。

つづきジュニア記者1期生 横浜コーヒーフェスティバル主催 バリスタ 百崎佑
ジュニア記者は私の人生にとって、非常に大切な一歩でした。小学4年の私にとって多くの学びと発見の連続でした。記者としてたくさん取材活動に参加し、多くの交流の機会を通じて、人と関わる仕事の楽しさを実感しました。その経験が、現在コーヒーのバリスタとして働き、横浜でコーヒーフェスティバルを主催するきっかけになっています。ジュニア記者になって活躍してみませんか？